

第1 事業の概要

平成26年度は、一般財団法人としての2年度であり、継続事業として「日本学の総合研究・普及」、「日本学に関する講演会・講習会の開催」、「日本学に関する雑誌・図書の刊行」の3事業を実施し、当協会の目的である学術文化の発展に寄与すべく尽力したところである。

第2 事業の実施状況

1 日本学の総合研究・普及(継続事業1)

本事業は、広範かつ多岐にわたる日本学の総合研究を研究者の個人研究、共同研究あるいは研究会を通じて行うとともに、その普及を図るものである。

(1) 研究及び研究会

研究者は、大学教授、高校教諭、評論家などの本会の研究員をはじめ、本会の趣旨に賛同する研究者であるが、専任研究員として委嘱した14名については、「協会創立60周年記念事業実施計画」で指定した研究項目の研究を引続き行ったところである。

研究会については、東京における学生対象の古典講読の研究会を実施したほか、地方(水戸、伊勢、岐阜、大阪等)においても地域の特性に応じた定例研究会を行った。

(2) 公開研究会

平成23年度から実施している公開研究会は、26年度も引き続き「日本の近現代戦史に学ぶ会」と「先哲に学ぶ会」を実施した。

「日本の近現代戦史に学ぶ会」は、「日米戦争の史実に戦いの本質を考える」をテーマに、下記の通り4氏が、それぞれの演題について発表を行った。

日時	発表者	演題
H26. 6. 14 (土)	元防衛研究所主任研究官 永江太郎氏	「中部太平洋における激戦のはじまり」 —マキン・タラワとマーシャルの玉砕—
H26. 9. 13 (土)	元防衛大学校教授 杉之尾宣生氏	「太平洋における日米海軍の決戦」 —あ号作戦とマリアナ沖海戦—
H26. 12. 13 (土)	元防衛大学校教授 荒川憲一氏	「サイパン、グアムの戦い」 —太平洋の防波堤の破綻—
H27. 3. 14 (土)	偕行社 戦史研究委員 松田純清氏	「ペリリュー島の戦い」 —中部太平洋最大の激戦地—

「先哲に学ぶ会」は、「明治維新を彩る幕末の志士」をテーマに、下記の通り4氏が、それぞれの演題について発表を行った。

日 時	発 表 者	演 題
H26.4.26 (土)	真木和泉守顕彰会 小川三平氏	「明治維新を彩る幕末の志士」 —真木和泉守保臣—
H26.7.19. (土)	水戸史学会副会長 久野勝弥氏	「明治維新を彩る幕末の志士」 —高杉晋作（東行・春風）—
H26.10.25. (土)	植草学園短期大学名誉教授 水戸史学会理事 但野正弘氏	「明治維新を彩る幕末の志士」 —渋沢栄一（青淵）—
H27.1.25 (日)	(一財)日本学協会常務理事 永江太郎氏	「明治維新を彩る幕末の志士」 —西郷隆盛—

(3) 研究成果の普及

研究成果の論文等は、学術誌『藝林』と機関誌『日本』に発表した。

以上の研究事業の概要は、下記のとおりである。

研究者の学会発表回数： 9編	『藝林』発表論文
研究者の論文発表回数： 49編	『日本』発表論文
定例研究会	開催数45回 参加者：約510名
公開研究会	開催数8回 参加者：327名

2 日本学に関する講演会・講習会の開催(継続事業2)

本事業は、日本学普及のために行っている講演会、藝林会学術研究大会、講習会の事業である。

(1) 講演会

平成26年度は、東京講演会（第11回）を学士会館において、「中国の『台頭』、アメリカの『アジア回帰』と日本の安全保障」と題して（講師 防衛大学校教授 山口 昇氏。要旨は『日本』第65巻第4号に掲載）、また大阪講演会（第12回）は国民会館において「明治の皇后陛下に学ぶ—女子教育と慈善事業への御貢献—」と題して（講師 明治神宮国際神道文化研究所主任研究員 今泉宜子氏 京都産業大学名誉教授モラロジー研究所教授 所 功氏。要旨は『日本』第65巻第3号に掲載）開催した。

(2) 藝林会学術研究大会

藝林会学術研究大会は、毎年テーマを設けて開催し、記念講演、研究発表等を行

っているが、第8回目となる平成26年度は、國學院大學渋谷キャンパス 常盤松ホール(東京都渋谷区)において「平泉澄博士をめぐる諸問題」を主題に、基調講演(「祖父平泉澄の家風と神道思想」 金沢工業大学教授 平泉隆房氏、「滞欧研究日記にみる平泉澄博士」 京都産業大学教授 植村和秀氏)、研究発表(「大正・昭和の歴史学と平泉史学」 東京大学教授 荏部直氏、「平泉澄博士の日本思想史研究」 神戸大学准教授 昆野伸幸氏、「史学史上の平泉澄博士」 関西大学等講師 若井敏明氏)、相互討論を行った。(発表論文等は、『藝林』第64巻第1号に掲載)

(3) 講習会

講習会は、日本学を高校生や大学生、社会人等の青少年に普及するために2泊3日の合宿形式で実施しているが、平成26年度も「わが国と日本人のあり方を考える」をテーマに奈良・大阪で実施した。

内容は、大学教授等各界の専門家による講義、講話をはじめ参加者の相互討議や意見交換、史跡見学等により日本の歴史や先哲について理解が深まるようきめ細かい指導を実施した。

(4) 開催結果

定例講演会(東京・関西)	参加者: 86名
藝林会学術研究大会	参加者: 104名
講習会	参加者: 66名

(5) 広報活動

定例講演会、藝林会学術研究大会、講習会の開催は、ホームページを始め、その都度、新聞(『産経新聞』)及び月刊誌(『正論』)で、会員以外にも広く参加を呼びかける広告を実施した。

3 日本学に関する雑誌・図書の刊行(継続事業3)

本事業は、日本学に関する研究成果の発表並びに普及を図るため、学術誌『藝林』と機関誌『日本』を発行するとともに日本学に関する図書の刊行および出版助成等を行うものである。

(1) 学術誌『藝林』の編集・刊行

『藝林』は、国民の道義を高揚し日本文化を向上させるため、真摯で自由な学問的研究を行うことを目的に設立された藝林会の学術誌である。歴史・文学・思想などの人文系学問の研究成果を発表する場として、会員のみならず広く一般から寄稿された論文を掲載している。平成26年度は、第63巻第1・2号を刊行した。

(2) 機関誌『日本』の編集・刊行

『日本』は、広く日本学を普及するために刊行している月刊誌である。

執筆者は、評論家、大学教授をはじめ各界の専門家、有識者等で、内容は政治、経済、歴史、文学など幅広い分野にわたっているが、投稿も掲載している。平成26年度は第64巻第4号～第65巻第3号を刊行した。

販売・頒布は、定期購読者以外にも、講演会・講習会や公開研究会で実施したほか、有識者への寄贈や学生には購読料を半額とするなどして普及に努めた。

(3) 図書の刊行

ア、図書は、『平泉澄著作集』の電子化刊行の研究と準備を実施した。

イ、『平泉澄博士神道論抄』を刊行した。

(4) 研究成果発表関係刊行物

ア 定期刊行物

名 称	頁 数	発 行 部 数	備 考
藝 林	190頁	400部	年2回刊行
日 本	50頁	1,200部	年12回刊行

(5) 広報活動

『藝林』と『日本』の広報は、年に5回新聞広告（『産経新聞』）を行った。